

# F I W C 関東 定例委員会報告 2009年4号

## 2009年 第4回 定例委員会

日時：4月18日（土） 14：30-17：00

場所：泉岳寺キリスト友会東京月会

参加者：矢口晃士、吉田亮輔、児玉裕史、原田真二、水野翔太、雨宮広樹、森田祥、松村佳織、今川麻里絵、小野留理花、林千種、近原弘芳、若林那奈、山本美子、荒木津香佐、青柳絵里子、高橋真裕、伊藤洋、林真美子、佐藤豊、門間純、小関太郎、近藤剛史、安国鉄平、鈴木美和子

ゲスト：加藤拓馬、田中良子さん、飯高さん、

ネパールキャンプの報告会も兼ねた定例会だったため、参加者多数でした。

### ネパール報告 報告者— 鈴木美和子、林真美子

2月19日から3月15日にかけてワークキャンプを行いました。

詳しくはネパールキャンプ報告参照。

そこで、参加メンバーに聞いた感想を紹介します。

#### 小野留理花

「初めての海外で本当に外国人っているんだなあと思った。色んな事を肌で感じて良かった。ネパールキャンプで感じたのは準備の大切さ。バックで応援してくれている人たち、みんなの思いを持っていたんだなと～感じた。しかし行ったワークが人材、資材不足と言う理由で完成できなかった。参加者の目的意識の違いもあるし…ワークキャンプって難しいんだなあと感じた。

体力に自信がないわけではないのに、現地では、キャンプ後半は寝込んでしまった。ワークができなかった分、村人との交流をしていたが、それが村人の役にたったかなあ…これから何をしていたらいいのか考えたい」

#### 林千種

「参加前はワークを第一に考えていた。現地での交流は大切にしていなかったが、ホームステイ先で温かさを感じた。ネズミを食べたことが印象的でした。」

#### 若林那奈

「村人が名前を覚えてくれたこと、料理の味付けを日本人好みにしてくれたこと、うれしかった。」

#### 山本美子

「初めて後進国に行って、日本は発達した国だと感じた。「日本の子供のおもちゃは、知能を発達されるものなんでしょ？すごいなあ。」「でも、問題もあるんだよ。」そんな村人とのやりとりで、国際支援を感じた。それぞれの豊かさがあるんだなと思った」

#### 高橋真裕

「トイレを作ってなんになる？と思っていたが…日本が50年かけてインフラ整備を行って、道路があって車ができて、電話があって、そして携帯電話が普及して等徐々に成長した。でも、ネパールにはいきなり車や携帯が普及した。インフラがないのに。これは危ない。だから、インフラの基本トイレづくりワークで。」

## 続、ネパール報告

### 今川麻里絵

「村人の気持ちの変化を感じた。最初は村人が無反応だった。だんだんうちとけてゆく。キャンプの最後に歌った時、手拍子をしてくれた。フィリピン人は陽気で最初からフレンドリー。ネパールはじっくりと関係を作ってく。時間を共有する、仕事を共有する。これが大切。日本でも…」

### リーダーの感想 鈴木美和子

「2年前からもう一度行きたいな、でも、一人の力じゃできないなあ…って時に林真美子と一緒にやろうと言ってくれて、16人のメンバーが来てくれて、それぞれが色いろ感じてくれてまたキャンプやりたいってしてくれる人がいてうれしい。

### サブリーダーの感想 林真美子

「今年から働き出したが、去年就活をしているときに、自分を変えたものに気がついた。それはネパールキャンプだった。そこで得たつながりをもう一度作りたと思った。

前回のキャンプでは、水がない事とか等で

「生きる！」を感じた。

2日目の今回、村人を仲良くなれた。言葉は通じないけど、伝わりあった。そんな中、

「あなたはここに來れるけど、私にはあなたの国には行くことができない」と言われた。

自由の大きさの違いを感じた。

世界を変えたい！何か変わったらいいな。

日本で忙しくしていると、近くの人さえ、大切にできなかったり、そんな自分がある。

今後は次回につなげる事をしようと思う。

そして、本気で生きることをしたい。

### 続 ネパール報告 報告者— 津村 智勇

7月19日ネパールキャンプ写真展を行います。実行者 津村、小野。

垣見一雅さん（OKバジ）の講演会も同時に行います。場所は飯田橋ボランティアセンターの予定です。

## フィリピン報告 報告者— 水野 翔太

先月、下見から帰ってきてその後は、ワーク・工程等の調整をしています。  
5月には、広報活動・参加者募集を始め、説明会も行います。ポスター、ビラ撒きを手伝ってください。フィリピンキャンプのホームページ <http://fiwc-p.com> からダウンロードして下さい。下見報告書は次回定例会に持ってきます。

## 中国報告 報告者— 児玉 裕史

下見報告書が完成しました。キャンプの日程は8月1日～。  
リーダー 荒木佑子。副リーダー 児玉 裕史、鄧晶音。  
ワークは娯楽室の修繕工事・後遺症ケア。  
5月に2回の説明会と、6月にミーティング、7月に全生園訪問予定。  
詳しくは、ホームページ <http://fiwc-c.com>

## 国内キャンプ・イベント 報告者— 吉田 亮輔

片品村 キャンプ日程 5月2日から5月5日  
参加者は20人まで。

## 先輩から話を聞こう

今月の先輩 近藤剛史

プロフィール

2000年 21歳 初めてのワークキャンプはフィリピンへ その後3回参加。  
卒業後、独立行政法人 JICA に勤め、沖縄、アマゾン・ボリビア等へ出向。  
現在は、医者を目指し、医学部4回生。2007ネパールキャンプにも参加。

**Q1** 何故国際協力の仕事を辞めてまで、医者になりたいの？

**A1** やりたい事をやる為。

フィリピンワークキャンプで知り合ったイロと言う青年。彼が病気になった。人工透析を受ければ、治る病気だが、病院がない、医者がいない為に亡くなってしまった。日本にさえ生まれていれば死ぬことはなかっただろうに。アマゾンでは病院に行ったら、よけいに悪くなると言われている。設備が悪いからだ。海外だけではない。日本にも無医村もある。そこで医者をやるってことも考える。ただ、目の前の人だけを助けるもありだが、行政を動かす行動をとるのもありだと思う。

**Q2** JICAで働いていた観点からFIWCの活動をどう思うか？

**A2** FIWCの活動はもちろん意味がある。例えば井戸作り。プロが作った方が良いものができるが、ワークキャンプでは人と人が触れ合う。そこで何かを感じてアクションを起こす。そんな魅力がある。

しかし、異文化が接触した時善意でいたことが、悪影響を及ぼすこともある。“ただ面白いから行く”だけではなくて、考えておいた方がいい事がある。キャンプをすることでマイナス要素がないか？公共性のあるものを心がけているか？悪意のない悪になっていないか？

前もって勉強することは大切だが、本に書いていることが必ずしも正しいわけではない。だから、常識を押し付けたりせず関わっていったらいいと思う。

**Q3** 今の大学生にアドバイスがありますか？

**A3** この場に来ている学生はすでに意識が高いと思うんだけど…まずは行け！ってことだから。みんなに言えることは、海外での感情を自分の中に閉じ込めておくんじゃなくて、周りを巻き込んでいくようにするともっと良くなるってことかな。ありがとうございました。

## 今年目標

2009年春からのやりたい事を話し合いました。

**新委員長 矢口晃士**

「プラスアルファ」をしたいっ！

各国キャンプ、ネパール、フィリピン、韓国、中国が個々で活動している。

FIWC関東委員会としては定例会を行って。でも、話をするだけではなくて何かをしたい。遊びをする、ごみ清掃したり何でもいからやっていきたい。

特に外に発信することをしてゆきたい。

**安国鉄平**

町と村を繋ぐような活動をやってみたいです。

**荒木佑子**

O Bの西尾雄志さんが早稲田大学で、ボランティアの授業をしています。皆で受けに行きませんか？

**佐藤豊**

下見代のバックアップを関東員会でできたらいいね。

## 次回の定例会のおしらせ

【場所】キリスト友会東京月会

【時間】5/16(土)13時開場,14時開始



素敵な会場です

## 懇親会参加のおすすめ

【場所】さくら水産 泉岳寺駅前店

【時間】5/16(土) 18時頃

【参加日】3000前後

毎月定例会後、懇親会を行っています。

懇親会だけの参加者も多数います！

お誘い合わせの上ご参加ください。